

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.858 2026

2026年7月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／太田直宏 編集人／横山由利亜



広島YMCAインターナショナル・ユース・ピースセミナーより（撮影：渡辺智弘）

OPINION

広島で学んだ「平和の文化」

広島平和文化センター元理事長 スティーブン・リーパー

今、国際情勢が悪化し、各国で武力強化が進んでいます。やっぱり強い者が勝つ。平和な世界なんて不可能ではないか？ 私自身もそんな気持ちになることがあります。でもよく考えてみれば、このまま武力を強化して競い合う先に、どんな未来があるでしょうか。人類は今、試されていると思います。戦い続ける競争社会から、協力し合う平和文化へとシフトできるかどうか、大きな岐路に立っていると思うのです。

競争社会では、武器をもち、お金をもち、メディアもかかえて競争に勝った者が世界を支配します。力による支配です。そこでは、誰が強いのか、弱いのか。誰に従うべきで、誰を従わせるべきか。常に力の序列の中で物事が判断され、従わないと攻撃されます。今のアメリカがしていることです。でも、それではこの先うまくいかないと、だんだん皆が気づいています。競争ではなく、協力し合う必要がある。自分の国、自分の組織の利益だけでなく、人類全体の利益を考えなければ、地球は危ない。

特に核兵器の問題は、力による支配そのものです。一度に何十万人も殺傷する破壊的な兵器の力で相手を脅し、従わせる。従わなければ人類を滅ぼすぞ、と威嚇する。非常に意識の低いやり方です。この考え方を变えて、人類全体の平和を目指していかなければ、人間は核戦争も、気候危機など他のグローバルな問題も解決できないでしょう。

私はこの「人類全体の平和を考える」という考え方を、広島の人たちから学びました。37歳の時にたまたま広島に移住した私は、多くの被爆者証言を通訳・翻訳してきたのですが、彼らに共通していたのは「国家の枠にとらわれず、アメリカを恨み憎むのでもなく、ただひたすらに世界の平和を願う」という意識でした。原爆のすさまじい脅威を経験した被爆者たちは、もはや戦争によって問題解決はできない、人類全体の平和を考えねばならないと、早い段階から気づいていたのです。私は彼らのその姿に教えられたのでした。

同時に、この「人類全体の平和を考える」という意識は、気候危機や貧困問題など、他のグローバルな諸問題の解決にも応用できるものです。平和な文化へと意識を変え、核兵器を廃絶する。核兵器の問題は、他のグローバルな課題解決の最初の一步ではないでしょうか。

私は「平和」とは、戦う必要のない健全な社会だと考えています。すべての人が協力し合い、十分な食糧と水を得て、資源をシェアし、適切な仕事をして幸せに暮らせる社会です。人体にたとえていえば、身体を構成する何十兆個の細胞の一つ一つに栄養が行き渡り、しかるべき働きができてるのが健康です。一部の国だけでなく、すべての人が健康で幸せな生活を送れる、持続可能な地球全体のウェルビーイングです。

YMCAはウェルビーイングを目指す団体ですね。ぜひ、平和文化のリーダーとして、競争社会とは違う文化を広めてください。たとえばYMCAのキャンプ場で自給自足の共同生活をしてみるなど、競争のない平和文化を具体的に体験できたら素晴らしいと思います。YMCAは政治団体ではないですが、平和を良しとする人を育て、世論を高めていけば、政治も変わります。特に核の問題では、日本より発言力のある国はないです。日本のYMCAに、日本の若い人たちに期待しています。

（まとめ・編集部）



Steven Leeper ●1947年アメリカ生まれ。1歳の時、YMCA主事だった父ディーン・リーパー氏と共に来日。幼少期を日本で過ごす。1954年、洞爺丸事故で父を失い帰国。1985年に再来日。2007～2013年、広島平和文化センター理事長。2014年、広島県三次市に「平和文化村」を開設。著書に「アメリカ人が伝えるヒロシマ『平和の文化』をつくるために」（岩波ブックレット 2016）他

台湾シニアに人気 日本文化体験ツアー

「定年後、ゆったりと日本を旅行してみたい」。そんな台湾のシニア世代の声を受けて一昨年、京都YMCAは長く交流関係にある台中YMCAと合同で、50代以上を対象とした日本旅行を企画。日本語の学習と文化体験のセットプログラムを実施したところ大変好評で、京都だけでなく横浜、神戸、名古屋、和歌山、北九州のYMCA日本語学校でも開催されています。



台湾では学生時代に第二外国語として日本語を勉強した人が多く、現地の担当者によれば「若いころの留学の夢を実現したい」「実際に日本語を使ってみよう」といったニーズが高いとのこと。参加者はツアー中、YMCAの日本語学校で実用的な日本語を学びながら、和菓子づくりや七宝焼き体験、西陣織の見学など、単なる観光を超えた文化学習を堪能しています。

台湾YMCAからはこれまで、日本語学校への留学や、日本のキャンプ場でのボランティア活動 (ICPPJ) など多くの若者たちが来日しており、また日本からも水泳指導者を派遣するなど、多方面にわたって交流を続けてきましたが、シニアを対象としたプログラムは初めてのことで、両国とも超高齢社会を迎え、充実したセカンドライフを模索するアクティブシニアが増えている今、さらなる期待が寄せられていることを実感しています。



京都YMCA 中村 彰利

世界の仲間と可能性広がる

「チェンジ・エージェント」6期生 きむめぐ 金 魅貝さん



世界YMCAが主催する「チェンジ・エージェント」は、社会課題に取り組むユースリーダーを養成する、オンライン研修です。2025年4月～2026年7月の第6期生として日本から1人、茨城YMCAの金魅貝さんが44の国と地域のユース85人と共に受講しています。話を聴きました。

私は大学入学後、茨城YMCAでキャンプリダーをしていたのですが、「貧困家庭の子どもたちも参加できるように、寄附金を集めたい」「環境問題にも取り組みたい」などと考えていたときに「チェンジ・エージェント」を知り、応募しました。

研修では、YMCA運動の基礎知識として、理念や歴史、社会課題を解決するためのアクションプランの考え方やプレゼンスキルなど多岐にわたる学習をしています。自分自身のプランを作る課題もあり、私は「在日朝鮮人の歴史を通して現代の問題を考える勉強会」の企画案を発表したところ、海外の仲間から新鮮な意見や感想が寄せられて、実際にやってみようと思われました。毎月英語で課題を提出する研修は大変ですが、自分の成長を実感できて楽しいです。

私はチェンジ・エージェントの他にも、2024年の「世界YMCAサミット」や日本YMCA大会など、これまで多数のイベントに参加してきましたが、いつもYMCAのネットワークの力に驚かされます。ケニアのサミットでは、私が一言「環境教育キャンプに興味がある」と話した途端、世界中のキャンプリダーからアイデアや情報が集まって、どんどん仲間が増えて、大きな波が広がっていきました。私にも何かできるかもしれない。YMCAのイベントに参加するたび、そんな期待と可能性を感じます。

今年11月の日本YMCA大会では実行委員長を務めることになりました。皆さんと一緒に大きな波を作っていけるような、そんな出会いができる大会になればいいなと思っています。

ウクライナ避難者の集い 横浜YMCA「みどりクラブ」継続中

東京都に次いでウクライナ避難者が多く暮らす神奈川県で、横浜YMCAは2023年から毎月1回ほど、避難者同士の交流や情報交換の集い「みどりクラブ」を開催しています。運営を担当する私たち自身も避難者なので毎回、参加者の人と相談しながら、一緒に企画を作りあげています。



5月4日に開催した第40回のクラブでは、携帯電話の契約相談会とベビーカステラ作りを行いました。携帯電話の料金プランの比較やSIMカードの購入方法などを、電話会社の担当者にオンラインで質問し、日ごろの疑問や困りごとを解決。その間に子どもたちは、スタッフと一緒にタコ焼き器を使ってベビーカステラを作り、最後はみんなでお茶の時間。参加者から手作りお菓子の差し入れもあり、ウクライナ語でゆったりと会話を楽しみました。

これまで実施してきたのは、クラフトなど創作活動や料理、ストレッチ、ポッチャ、映画鑑賞のほか、新年には郷土料理の持ち寄りパーティーを開いたり、いちご狩りなど遠足に出かけたり。参加者からは「3年の間に、家族のような絆が生まれた」「小さな楽しい時間が、大きな支えになっている」「魂の癒しの場」といった声も聴かれます。戦況の見通しがたない中、心も体もリフレッシュして、少しでも前向きに暮らせる場を目指していきたいと思っています。

横浜YMCAウクライナユーススタッフ
カテリーナ・ポプロジユク/リリア・ゴルロ

第24回 日本YMCA大会のご案内

2年に一度の「日本YMCA大会」を今年11月に開催します。

企画運営を担うのは、全国9YMCAから集まったリーダーや学生、スタッフなど12人の実行委員たち。「世界YMCA Vision2030」に向けてどんな大会にしていくか、ただいま準備を進めています。ぜひご予定ください。

- ▼日時 2026年11月27日(金)～29日(日)
- ▼会場 国際青少年センター YMCA東山荘
- ▼対象 YMCAに関わるすべての方

≫詳細はホームページで

<https://sites.google.com/japanymca.org/assembly/?pli=1>



YMCAみんなのフォトコンテスト

作品募集

全国のYMCAで行われた活動の写真を募集します。

国際・キャンプ・学校・保育など、活動の種類は問いません。出会い、体験、交流など、各地で展開されている「YMCAストーリー」を、ぜひ写真に撮って応募してください。

テーマ 写真で伝える「みつかる。つながる。よくなっていく。」

応募締切 2026年9月30日(水)

対象作品 2025～2026年度のYMCAの活動内で撮影された作品

部門・賞 YMCAブランド賞・優秀賞・佳作ほか。受賞者には副賞あり
*受賞作品は、全国YMCAの広報グッズやホームページなどに掲載します

主催 日本YMCA同盟

≫詳細はホームページで

<https://www.ymcajapan.org/ymca-photo-contest/>

